

DIPL 通信第 174 号をお届けします。

あの7月・8月の暑さはどこへ行ったのでしょうか!? すっかり秋の深まりを感じます。体調管理には十分注意していきましょうね。早くも9月末には中学生、10月半ばには高校生の中間テストが予定されています。2学期は文化祭、合唱コン、体育祭、修学旅行など学校行事が目白押しです。行事に集中するのは当然ですが、「疲れた!」を理由に、ややもすると勉強への集中力がなくなり勉強時間が取れないことになってしまいます。しっかりと計画を立てて、「今日やることは今日必ずやる!」を実践していきましょう。

今回の DIPL 通信は、『自分磨き』について書いてみました。

DIPL 代表 小島裕一

自分を磨く

高3生、中3生共に、志望校選択の時期になりました。志望校選びの理由を聞くと、「将来、〇〇をやりたいから」という声を聞く機会が最近増えてきています。エンジニアになりたい、看護師になりたい、介護の仕事に就きたい、水族館で仕事をしたい等々具体的な仕事名が出てくるし、その夢を実現するために高校選び・大学選びをしていることに感心します。

昨年の DIPL 通信でも紹介しましたが、AI (人工知能) は今後も進歩し続けるのは確実で、人間に求められる能力は、AI には出来ない創造力 (何も無いものから新たなものを創り出す能力) なのです。2020 年の大学入試改革では、①現状を分析し、②それを自分の言葉でまとめ、③それに対する対策を相手に分かりやすく伝える能力を求められるようになるのです。現行の「知識事項中心の大学入試」とは大きく変わります。

少子化の中、数字上は大学進学を希望する生徒はランクを選ばなければ全国のどこかの大学に進学出来る状況です。しかし、文科省による首都圏の私立大学の入学者数の定員を大幅に上回る入学者数の絞り込み政策により、上位ランクの厳しい受験が今後も続くことが予想されます。この状況と大学入試改革との関係がどうなるかは二年後 (現高1生の大学受験時) の開始でありながら、今のところ状況が見えてきていません。

でも、大学・高校卒業後に直面する就職では、各会社が求める人材は、厳しい経済状態を乗り切るために他の会社との差別化・区別化が問われる時代になっています。そこで、他とは異なる個性あふれる人材を求めているのが語られています。そして、自己中心主義ではなく、他人の喜びを自分のものとして喜べる気持ちを持つ人を求めています。そんな感性を育てるためにこれから進学する大学・高校では、『自分磨き』がとりわけ大切になってきています。

中高生の皆さんにとって

『自分磨き』とは①新しい知識をどんどん学び、吸収することです。

中学生の皆さんは、今まで学んできた9教科の学習は入り口にすぎません。高校でもっと知識を拡げていくのです。大学では将来の希望する分野の専門教育を学ぶのです。だから、サッカー・野球を部活でやりたいという人も、学習面にも目一杯力をいれて勉強する必要があります。②皆さん自身の隠れた才能・能力を見付け出すことです。皆さんの可能性は無限です。どんな隠れた才能を持っているかは新たな知識を学ぶ中で、出てくるかもしれません。そんな勉強をしている姿勢を見て、周りの人がキミの可能性を見つけてくれるかもしれません。

だから、自分磨きをしていけば、「他人とは違う個性豊かな人・魅力ある人」になることができます。当然ですが、行動せずに待っていても何も変わりません。目的を持ってそれを達成するために何をしたらよいか考え、それを実践することで次に進めるのです。生徒の皆さん、『自分磨きのための初めの一步』を踏み出しましょう。